



2017年3月18日に行なわれた「おはなし列車」。この日は2回運行し、約170人の親子らが参加した。

いわて生協は、全国の生協から寄せられた支援募金をもとに、沿岸部で復興支援活動に取り組む団体やNPOへ助成する制度（「被災地支援活動助成金」制度）を開始しました。2016年度の助成先の一つに選ばれた「宮古読み聞かせの会おどっつあんS」の活動を紹介します。

三陸鉄道を走る
「おはなし列車」
読み手はおどっつあんたち

NHK朝の連ドラ「あまちゃん」の舞台になった三陸鉄道北リアス線を走る臨時列車内で3月18日、絵本を読み聞かせる「おはなし列車」が開催されました。主催したのは、「宮古読み聞かせの会おどっつあんS[※]」（以下、おどっつあんS）です。

おどっつあんSの結成は2008年。一般社団法人宮古観光文化交流協会主催の感謝祭で行なわれた「お父さんたちが読む絵本」に集まったのがきっかけでした。お父さんたちによる読み聞かせは親子に好評で、何より読んでいる自分たちが楽しかったため、団体として活動していくことを決めたそうです。

代表の前川克寿^{まへがわかつひとし}さんは、「『イクメン』という言葉がまだ世間に浸透していなかった当時、男性による子育て支援の一環として絵本を読む楽しさを伝えたかった」と話します。

『「おはなし列車」は、地元になんだ絵本を、ゆかりの場所です読み聞かせできたらいねと話し合っていた夢が実現したもの」と語るのは、おどっつあんSのメンバーとして活動に携わる浦田広重^{うらたひろしげ}さん。

子どもと保護者を応援して 絵本を読む楽しさを伝えたい

宮古読み聞かせの会おどっつあんS、いわて生協



宮古市立図書館での読み聞かせ風景。

おどっつあんSのメンバーの方々。今回の取材でお話を伺った、代表の前川克寿さん（後列右）、山本光太郎さん（後列中央）、浦田広重さん（前列左）。



※ 宮古市を中心に活動する、絵本の読み聞かせを行なうボランティアの団体。メンバー12人（男性8人、女性4人）で、その多くが子育て中。「おどっつあん」は岩手県沿岸地方の方言で「お父さん」の意。



読み聞かせは、途中で子どもとの会話を入れるなど、工夫を凝らす。

絵本とそれを読む人がいる そこは日常が戻ったようだった

この助成金は、全国の生協から贈られた募金を活用しており、おどつつあんSのメンバーの方々は「多くの方の善意に深く感謝しています」と話してくれました。

「楽しく、子どもと保護者を応援したい」との気持ちで大

切に、活動を続けてきました。それは東日本大震災後も変わりません。

震災直後、大きな被害を受けた宮古市にも全国から絵本が送られてきました。おどつつあんSは「被災した中で、動けるメンバーが動く」というスタンスで、

絵本の仕分けや配布に携わりました。本箱を作り、本棚が無くなった保育園や幼稚園に届けることもしました。本箱に置く本は、明るい気持ちになれるものを選び、また配った先で読み聞かせをしていくこともあったそうです。

「絵本とそれを読む人がいる空間は、そこだけ日常が戻ったようだった」「被災して遊べる環境にない子どもたちの安らぎの場になるなど、少しは役に立てたかもしれない」。前川さんも涌田さんも、そう言いつつ、当手を振り返ります。

同じくメンバーの山本光太郎やまもとこうたろうさんは、こう話します。「子どもと触れ合える時間がとても幸せで、震災後はその思いがより強くなりました」

宮古の子どもたちに 明るい、楽しい、面白い体験を

おどつつあんSは、宮古市立図書館や地元の書店、保育園・幼稚園でのおはなし会、読み聞かせに関する講演、地元コミュニティラジオでの民話朗読などさまざまな活動に取り組んでいます。

活動には、その日、都合のつくメンバーが参加しています。読み聞かせのやり方も、途中で子どもとの会話を入れるなど、上手さよりも保護者が

あれだつたら自分にもできると思える雰囲気大切にしているとのこと。

涌田さんは、「お父さんが子どもにも絵本を読んであげることがごく普通になってほしい」と話してくれました。

夏は宮古市立図書館と共催で、「お化け屋敷」を実施します。おはなし列車と同様に「本を読む+体験」を重視したイベントで、図書館の書棚を迷路のように区切ってお化け屋敷に見立て、閉館後の暗い中で怖い話をしたりと、随所に工夫が盛り込まれています。

「宮古の子どもたちが、どこかのおじちゃんを読む絵本で明るい気持ちになった、三陸鉄道に乗って絵本を読んでもらって楽しかった、夏の図書館のお化け屋敷は怖いけど面白かったなど、良い思い出をつくってくれたらうれしい」。おどつつあんSの

これからも 「子どもの笑顔のために」

いわて生協
支援活動担当
福士久美子ふじくみこさん



おどつつあんSとは、いわて生協も取り組むユニセフ活動を通して知り合いました。生協では、さまざまな支援活動に取り組んでいますが、子どもたちへの支援は十分にできていません。そのため、こうした活動をぜひ応援したいと「被災地支援活動助成金」が決まりました。

おどつつあんSの皆さんには、これからも活動をとおして、子どもたちの笑顔を広げていただきたいです。



2016年8月に宮古市立図書館内で開催した「お化け屋敷」に参加した、おどつつあんSのメンバーと子どもたち。

メンバーたちはそう考えています。被災地の復興支援に寄せられた善意(募金)が、子どもと支援に携わる人たちの笑顔につながっています。

(文 早坂恵美)